

【案】

令和4年度

事業報告書

理事会提出 (R5.05.24)
定時評議員会提出 (R5.06.23)

法 人 本 部
千 歳 敬 心 苑
池 袋 敬 心 苑
浦安市障がい者福祉センター
敬 心 ゆ め 保 育 園
江 東 区 障 害 者 福 祉 セ ン タ ー

社会福祉法人 敬心福祉会

令和4年度事業報告書

目 次

	頁
1 社会福祉法人敬心福祉会 経営理念 . . .	1
2 第1部 法人本部 . . .	2
3 第2部 千歳敬心苑 . . .	11
4 第3部 池袋敬心苑 . . .	18
5 第4部 浦安市障がい者福祉センター . . .	26
6 第5部 敬心ゆめ保育園 . . .	30
7 第6部 江東区障害者福祉センター . . .	33

社会福祉法人敬心福祉会 経営理念

わたくしたちは、少子高齢社会における地域福祉の拠点たる使命を自覚し、次に掲げる理念の基に永続的事業の経営に取り組みます

- 1 いつも敬う心で人権と尊厳を守り、利用者(おとしより・障がい者・児童) に接します
- 2 ひとりひとりの利用者にとって最もふさわしい生活を追求し、利用者と家族が満足するサービスの提供に努めます
- 3 法人・施設の持つ機能を活かし、地域社会への貢献に努めます
- 4 常に健全で活力ある経営と民間社会福祉事業としての先駆性・独自性に努めます
- 5 常に職員の資質の向上と待遇の改善を図り、いつも明るくさわやかに働く施設を目指します



第1部
法人本部
目次

		頁
1	令和4年度 事業報告（はじめに） . . .	2
2	令和4年度 . . .	3
	理事会及び評議員会の開催状況	
3	役員名簿・評議員名簿 . . .	5
4	法人組織図 . . .	6
5	法人の沿革 . . .	7
6	法人経営会議の開催状況 . . .	8
7	その他本部事業 . . .	10

令和4年度 事業報告（はじめに）

令和4年度は、3月に開催された国際野球大会WBCでの侍ジャパンの活躍により、日本国民は優勝のプレゼントを受け取ることができました。大谷選手を筆頭に日本人選手が、国際的な大会で活躍する場面が増え、スポーツの国際化は益々進むものと感じております。しかし、ここ数年の間に起った国際的な問題・コロナ禍は地球規模での広がりを見せ、さらには安全保障上の緊張関係を多方面で増加させているのが現状であります。

ウクライナ紛争の長期化とOPECの減産による影響から石油・ガスが高騰し、コロナ禍による国際的な労働力不足などもあり、物流の停滞・工場の生産性低下等による商品の納入遅れも頻発いたしております。また、アメリカ・スイスの金融機関に端を発した金融不安もおきており、厳しい世界情勢が予想されます。

日本国内では、出生率低下に歯止めがかからず、深刻な人口減少・労働力不足問題がおきており、高齢者・女性の活躍で労働者不足を補う方策はとられておりますが、リーマンショック以後の十数年間、有効求人倍率は右肩上がり続けており（コロナの影響で、ここ2年有効求人倍率は減少）、外国人労働者が多方面で活躍する社会となっております。福祉施設においても例外では無く、今以上に、外国人労働者に頼る職員配置となることが予測されます。

このような一地域のことが世界的な規模に広がるグローバル社会においては、国際的な視点を持ち、将来を見据えた施設運営をはかることが重要になります。外国人労働者を含めた職員確保・ICTの活用等により施設環境等の改善を通し、よりよいサービスの提供を目指す必要があります。外国籍の方たちが利用する施設・働く施設として、ともに選ばれる存在とならなければなりません。

施設のこの一年は、コロナによるご利用者の自粛、水道光熱費・食材等の高騰、物品等の納入時期変更などから、決算がどのような状況になるか大変危惧いたしておりましたが、職員の努力・行政の支援等もあり、資金的には黒字の見通しとなり、厳しい状況の中を乗り越えてくれた職員皆さんのがんばりに感謝申し上げます。

また、令和5年度からは、「江東区障害者福祉センター」の指定管理が開始され、豊島区においても「入浴特化型デイサービスモデル事業」を開始することになっております。厳しいときに新規事業へチャレンジする勇気を示した皆さん、また、そのことに理解を示してくださったご利用者等、関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

令和5年5月
社会福祉法人 敬心福祉会
理事長 小林 光俊

1 令和4年度 理事会及び評議員会の開催状況

開催日（場所）	出席者数	主な内容
第1回理事会 令和4年5月18日（水） 午後3:00～午後4:30 ホテルグランドヒル市ヶ谷 翡翠の間	理事 6名 （欠席0名） 監事 2名 （欠席0名）	《議案》
		第1号 令和3年度事業報告
		第2号 令和3年度計算書類等の承認
		第3号 定時評議員会の招集
		第4号 社会福祉充実残額
		第5号 施設運営規程の一部改定
		第6号 第三者委員の選任
		《報告》
		第1号 監事監査の実施
		第2号 行政指導監査
		第3号 財務会計に関する支援業務
		第4号 その他報告事項
		第5号 江東区障害者福祉センター
定時評議員会 令和4年6月10日（金） 午後3:00～午後5:00 ホテルグランドヒル市ヶ谷 珊瑚の間	評議員 8名 （欠席2名） 理事 6名 （欠席1名） 監事 2名 （欠席0名）	《議案》
		第1号 令和3年度計算書類等
		第2号 社会福祉充実残額
		《報告》
		第1号 監事監査の実施と監査報告
		第2号 令和3年度事業報告
第3号 その他報告事項		
(仮)臨時評議員会 令和4年11月24日（木） 午後2:30～午後3:30 ホテルグランドヒル市ヶ谷 真珠の間	評議員 7名 （欠席1名） 理事 5名 （欠席1名） 監事 2名 （欠席0名）	《報告》
		第1号 江東区障害者福祉センター受託
		第2号 江東区障害者福祉センター予算
		第3号 主要人事
		第4号 賃金規程の改定
第2回理事会 令和4年11月24日（木） 午後3:30～午後4:30 ホテルグランドヒル市ヶ谷 真珠の間	理事 6名 （欠席1名） 監事 2名 （欠席0名）	《議案》
		第1号 江東区障害者福祉センター受託
		第2号 江東区障害者福祉センター予算
		第3号 主要人事
		第4号 賃金規程の改定
		《報告》
		第1号 江東区障害者福祉センター準備室
		第2号 会計、特定個人情報管理責任者

		第3号 実地指導検査等
		第4号 新型コロナウイルス感染症の状況
第3回理事会 令和5年3月24日(金) 午後3:30~午後5:00 ホテルグランドヒル市ヶ谷 ペガサスの間	理事6名 (欠席0名) 監事1名 (欠席0名)	《議案》
		第1号 令和5年度事業計画
		第2号 令和4年度補正予算
		第3号 令和5年度予算
		第4号 江東区障害者福祉センター運営規程
		第5号 施設運営規程の一部改定
		第6号 経理規程の一部改定
		第7号 第三者委員の選任
		《報告》
		第1号 令和5年度会計、特定個人情報管理責任者
		第2号 令和5年度嘱託医(産業医)

2-1 役員名簿

定数 理事6～7名、監事3名（令和5年3月31日現在）

	役職名	氏名	就任月日（任期）	主な経歴
1	理事長	小林 光俊	令和3年6月10日 ～令和5年6月	学校法人敬心学園 理事長
2	理事	柳澤 均	令和3年6月10日 ～令和5年6月	常務理事
3	理事	佐藤 宏美	令和3年6月10日 ～令和5年6月	敬心ゆめ保育園 園長
4	理事	原田 佳明	令和3年6月10日 ～令和5年6月	永和総合事務所代表・税理士
5	理事	紅葉 真幸	令和3年6月10日 ～令和5年6月	日本児童教育専門学校 事務局次長
6	理事	肥田 淳	令和3年6月10日 ～令和5年6月	江東区障害者福祉センター センター長
7	監事	齊藤 幸司	令和3年6月10日 ～令和5年6月	齊藤会計事務所所長・税理士
8	監事	村尾 俊明	令和3年6月10日 ～令和5年6月	日本社会福祉士会元会長・現相談役

任期の終期は、令和5年度の定時評議員会の終結時（令和5年6月）

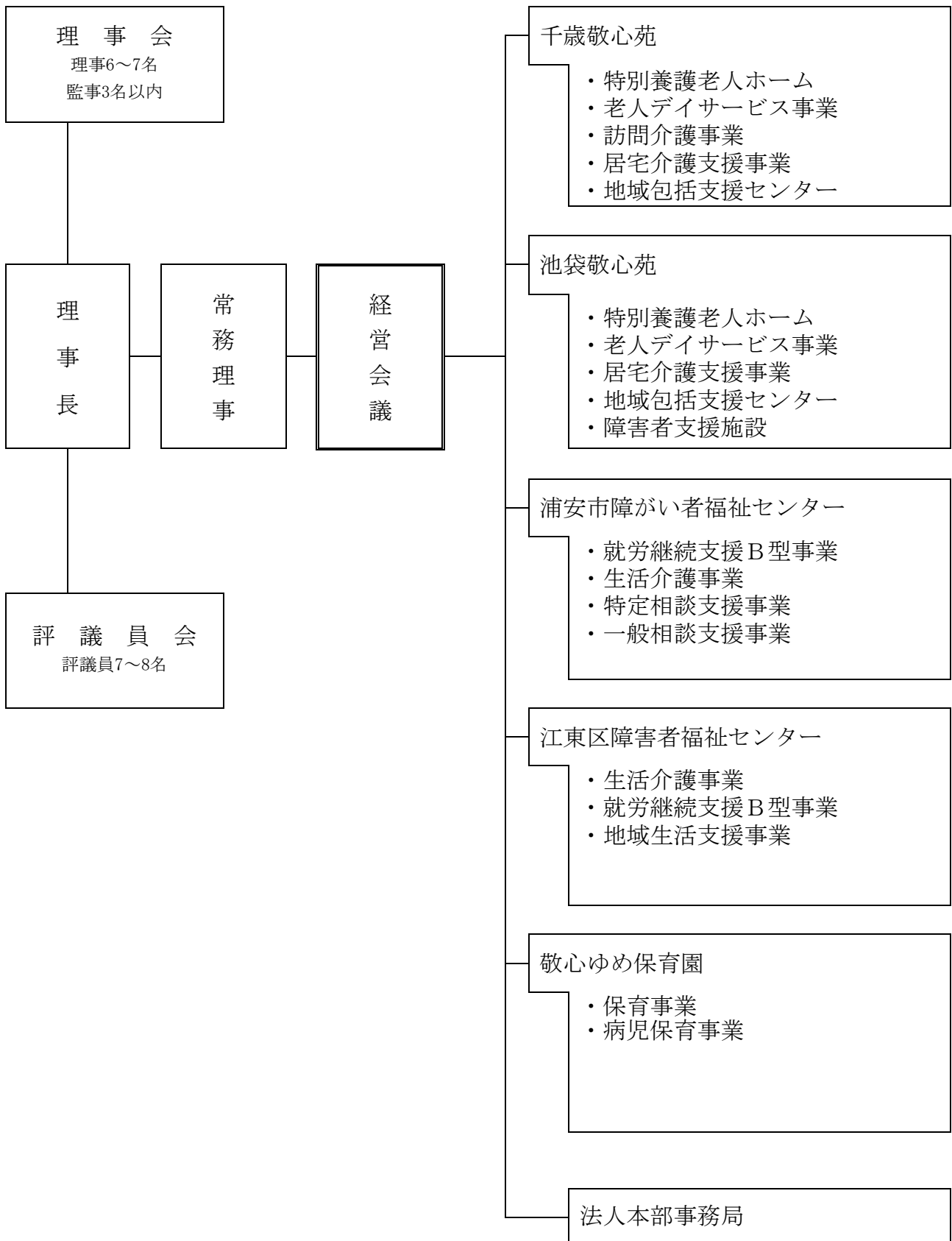
2-2 評議員名簿

定数 7～8名（令和5年3月31日現在）

	氏名	就任月日（任期）	主な経歴
1	内野 滋雄	令和3年6月10日 ～令和7年6月	(福)三徳会 理事長・医師
2	鈴木 武夫	令和3年6月10日 ～令和7年6月	元 東京都参事
3	宍戸 安夫	令和3年6月10日 ～令和7年6月	世田谷区給田町会 会長
4	蟻塚 昌克	令和3年6月10日 ～令和7年6月	立正大学社会福祉学部 教授
5	鈴木 恵子	令和3年6月10日 ～令和7年6月	民生委員・児童委員・保護司
6	児玉 裕司	令和3年6月10日 ～令和7年6月	日本陶芸倶楽部 理事長
7	魚津 亮太	令和3年6月10日 ～令和7年6月	(福)恩賜財団東京都同胞援護会 総務部長

任期の終期は、令和7年度の定時評議員会の終結時（令和7年6月）

3 社会福祉法人 敬心福社会 組織図



4 法人の沿革

平成	8	年	2	月	15	日	社会福祉法人 敬心福社会 設立
平成	9	年	4	月	14	日	特別養護老人ホーム「千歳敬心苑」設置認可・開所
			6	月	1	日	老人短期入所事業「千歳敬心苑」開始
			7	月	1	日	老人デイサービスセンター「デイ・ホーム千歳」開所
平成	11	年	4	月	4	日	「給田在宅介護支援センター」開所
平成	12	年	10	月	1	日	「給田介護保険サービス」事業開始
平成	14	年	5	月	1	日	「給田ヘルパーステーション」開所
平成	15	年	11	月	1	日	「浦安市障がい者福祉センター」の運営受託
平成	17	年	4	月	1	日	特別養護老人ホーム「池袋敬心苑」設置認可・開所
							老人短期入所事業「池袋敬心苑」開始
							老人デイサービスセンター「デイホーム南池袋」開所
							「ふくろうの杜在宅介護支援センター」開所
							「ふくろうの杜介護保険健サービス」事業開始
							身体障害者療護施設「雑司谷」開設
							身体障害者短期入所事業「雑司谷」開始
			10	月	1	日	「雑司谷デイサービスセンター」開所
平成	18	年	4	月	1	日	「烏山あんしんすこやかセンター」開所
							「ふくろうの杜地域包括支援センター」開所
							「スワンカフェ&ベーカリー新浦安店」開設
平成	20	年	7	月	1	日	「浦安市身体障がい者デイサービスセンター」受託
平成	21	年	4	月	1	日	豊島区障害者施設入浴サービス事業運営受託
平成	22	年	1	月	1	日	ふくろうの杜地域包括支援センターを
							「ふくろうの杜高齢者総合相談センター」に名称変更
平成	23	年	4	月	1	日	浦安市知的障がい者通所授産施設、浦安市知的障がい者通所更生施設及び浦安市福祉作業所を、就労移行支援、就労継続支援B型及び生活介護の各事業へ移行
平成	24	年	4	月	1	日	身体障害者療護施設「雑司谷」を、障害者支援施設（施設入所支援、生活介護）へ移行
平成	25	年	3	月	31	日	「スワンカフェ&ベーカリー新浦安店」閉店
							「浦安市身体障がい者デイサービスセンター」指定管理期間満了
平成	26	年	4	月	1	日	敬心ゆめ保育園 開園
平成	29	年	4	月	1	日	敬心ゆめ保育園 病児保育事業 開始
平成	31	年	3	月	31	日	豊島区障害者施設入浴サービス事業 期間満了
令和	3	年	4	月	1	日	浦安市障がい者福祉センターの指定管理更新に伴い、
							「一般相談支援事業」開始
令和	4	年	11	月	1	日	「江東区障害者福祉センター」準備室の設置
令和	4	年	11	月	17	日	「江東区障害者福祉センター」の受託、引継ぎの開始
令和	5	年	4	月	1	日	「江東区障害者福祉センター」運営開始

5 令和4年度 経営会議の開催

回	開催日	開始時刻	場所	会議内容	備考
1	4月13日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設の3月実績報告 3月決算・予算執行の状況報告 5月理事会開催への準備確認 	定員8名 参加8名
2	5月13日 (金曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設の4月実績報告 全体及び各施設の決算について確認 	定員8名 参加8名
3	6月15日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設5月実績報告 江東区障害者福祉センターについて 	定員8名 参加8名
4	7月20日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設6月実績報告 コロナによる利用者稼働、水道光熱費等の急騰影響報告 江東区障害者福祉センターについて 	定員8名 参加6名
5	8月17日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設7月実績報告 コロナによる稼働への影響、水道光熱費の影響報告 江東区障害者福祉センターへの人事異動について 	定員8名 参加5名
6	9月21日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設8月実績報告 コロナ感染者・濃厚接触者の報告 敬心ゆめ保育園指導監査について 	定員8名 参加6名
7	10月19日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設9月の実績報告 船橋市の指導監査、書面・電話により実施（指摘事項無し） 定年延長について コロナ感染者・濃厚接触者の報告 	定員8名 参加8名
8	11月24日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設10月の実績報告 浦安市より令和8年度以降の運営について打診 江東区障害者福祉センター引継ぎ報告 	定員9名 参加8名

9	12月14日 (水曜日)	13時	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設11月の実績報告 世田谷区による地域包括へのヒアリング報告 コロナ感染者・濃厚接触者の報告 浦安宿泊体験の再開 	定員9名 参加7名
10	令和5年 1月18日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設12月の実績報告 コロナ感染状況 12月31日終息 浦安市との協議報告 江東区障害者福祉センター引継ぎ状況 	定員9名 参加9名
11	2月15日 (水曜日)	15時30分	学園本部	<ul style="list-style-type: none"> 各施設1月の実績報告及び3月見通しについて報告 浦安市との協議報告(令和8年) 江東区障害者福祉センター職員の採用状況 	定員9名 参加8名
12	3月24日 (金曜日)	13時30分	ホテル グランド ヒル市ヶ 谷	<ul style="list-style-type: none"> 各施設2月の実績報告及び3月見通しについて報告 豊島区入浴特化型モデル事業 各施設の設備更新状況の報告 敬心ゆめ保育園 卒園式 	定員9名 参加9名

経営会議参加メンバー (令和5年3月31日現在)

理事長 小林 光俊	常務理事 柳澤 均	理事 原田 佳明
敬心ゆめ保育園 園長 佐藤 宏美	江東区障害者福祉センター センター長 肥田 淳	千歳敬心苑 施設長 山口 晃弘
池袋敬心苑 施設長 齋藤 隆弘	浦安市障がい者福祉センター センター長 大島 佐登子	法人本部事務局 事務局長 中村 純

6 その他事業報告

1 (1) 浦安市指定管理事業 23,420,000 円

事業の詳細は、第4部 「浦安市障がい者福祉センターきらりあ」参照。

(2) 江東区障害者福祉センター引継ぎ事業 1,044,000 円

2 東京電力(株) 架設送電線路契約(千歳敬心苑) 2,107,675 円

平成8年4月より東京電力(株)との間にて、標記契約を締結。

線下補償料の平米単価推移 2,740 円(平成8年) ➡2,790 円(平成10年)

➡2,845 円(平成12年) ➡2,788 円(平成14年)

2,760 円(平成16年・現在) ×763.65 m² ÷2,107,675 円

3 永年勤続表彰事業 対象者 32 名 支払額 1,300,000 円

番号	名 称	表彰 人数	金 額	備 考 (昨年)
1	千歳敬心苑	12 名	440,000 円	500,000 円
2	池袋敬心苑	10 名	470,000 円	500,000 円
3	浦安市障がい者福祉センター	4 名	210,000 円	310,000 円
4	敬心ゆめ保育園	6 名	180,000 円	210,000 円
	計	32 名	1,300,000 円	1,520,000 円

4 障害者雇用納付金 1,550,000 円(昨年 2,350,000 円)

・常用雇用労働者の総数 年間延べ人数 3,309 人(昨年 3,197 人)

・必要な法定雇用障害者人数 3,309 人 × 2.3 ÷ 70 人(昨年 60 人)

・法定雇用障害者の延べ人数(年間) 70 人(昨年 60 人)

・実際の雇用障害者延べ人数(年間) 39 人(昨年 13 人)

差 引 31 人(昨年 47 人)

・納付額の計算 31 人 × 50,000 円 = 1,550,000 円

(昨年 47 人 × 50,000 円 = 2,350,000 円)

5 江東区引継ぎ事業(江東区予算外負担分) 2,202,114 円

(1) 求人募集費用 1,390,400 円

(2) パソコン・ソフト関連 428,450 円

(3) 設計料 330,000 円

(4) その他 53,264 円

第2部
千歳敬心苑
(東京都世田谷区給田)

目次

		頁
1	はじめに . . .	11
2	特別養護老人ホーム千歳敬心苑 . . .	12
3	デイ・ホーム千歳 . . .	14
4	給田ヘルパーステーション . . .	15
5	給田介護保険サービス . . .	16
6	烏山あんしんすこやかセンター . . .	17

1 はじめに

令和4年度も、残念ながら、コロナ禍という表現を使わざるを得ない一年でした。特養は、1年の間に3度のクラスターを経験し、ご利用者は状態も状況も悪化し、療養期間が過ぎた後も、以前とは明らかに違う表情、身体状況が見られました。このような状況にあっても、3年目となったコロナ禍に、毅然と立ち向かう職員たちは、非常にたくましくなりました。クラスターの最中にも、前年度までと比較し、職員の感染が減少したことは、感染症対策の向上ととれます。

ショートステイの稼働率は、残念ながら近年では最も低い数字になりました。コロナ禍での運営の難しさを感じつつ、課題抽出し、次年度は解決に尽力してまいります。

デイサービスでは、コロナ禍で運営してきたこれまでの経験を活かし、感染症対策+コロナ前の活動、という新たなスタイルを確立した一年になりました。在宅では難しい外出の機会なども増えました。これと並行するように、コロナ前と同様のご利用者の笑顔、笑い声、活力が戻ってきました。

ヘルパーステーションは、最も採用が難しい部署となっています。その中で、職員たちは、訪問介護ならではのやりがいを感じ、伝え、今年度後半には職員の増員を図ることができました。次年度はさらに大事な一年になると思います。

給田介護保険サービスでは、課長と統括主任が事業所をけん引し、日々のコミュニケーションの中で、各ご利用者の情報を共有しています。また月に4回実施するミーティングも形骸化せず、常に向上していく仕組みを考え、実践しています。一人ひとりのスキルアップが感じられるとともに、主任ケアマネを1名増員できたことは、大変喜ばしいことです。

烏山あんしんすこやかセンターは、職員不足が長く続く中、仕様書に則って、しっかりと運営をしてくれました。年度の後半になり、ようやく職員の採用が決まり、新年度を13名体制でスタートさせることができました。少ない人数で事業所を支えてくれた職員たち、何より地域福祉を支えてくれた頼もしい職員たちが、令和5年度どのような運営をしてくれるのか、楽しみしかありません。

令和4年度は、全国の介護施設が、コロナ禍を乗り越えることに必死でした。また、物価高騰、光熱費の値上げなどにも苦しみ、経営的にも、非常に厳しい一年だったように感じます。

これは、一法人、一施設が頑張っ乗り越えていく課題ではなく、他法人、他施設と協力をしながら、ともに乗り越えていく課題です。利害を超越し、多くの関係者の方たちと協力し合いながら、この難局を乗り越えていきます。

コロナ禍という3年間、職員たちは苦しみ、葛藤しながら、本当に良く頑張りました。強くなりました。「コロナ後」といわれる社会が来たとしたら、彼らは「コロナ前」以上の介護、福祉を実践してくれるものと思います。楽しみです。

令和5年5月
千歳敬心苑 施設長 山口 晃 弘

2 特別養護老人ホーム 千歳敬心苑

(指定介護老人福祉施設 定員：80名 併設型短期入所生活介護 定員：12名)

(1) 特別養護老人ホーム

① 重点方針の実施状況

『ご利用者のワクワクと職員のイキイキを大事にします』

新型コロナウイルス感染症のクラスターにより、行事やレクリエーションを制限される生活が続きました。その中でも、グループ単位でのイベントや誕生日会は意識的に開催することができていました。苦しい時期もありましたが、ご利用者が楽しんでいる表情や言葉が職員の励みになっていました。アメーバ経営を意識して、グループ単位での企画を行ってきましたが、グループ間で回数や質に差があったことが次年度の課題です。

『ご利用者一人ひとりのヒストリーと、自分らしく生きるストーリーを大事にします』

私たちと出会う以前の歴史や習慣、趣味等の個性を尊重したケアを充実されることが目標でしたが、特にコロナ禍で入居されてきたご利用者については、ご家族との接点が圧倒的に減り、活かせる情報量が少なかったと思います。これは次年度の課題です。

また、クラスターによりお看取りの機会が多くありました。少しでもご家族に関わってもらおう努力、ご家族の意向をケアに取り入れる努力をしてきました。家族と共に、千歳敬心苑でお看取りすることが文化になってきたと思います。ご本人から直接意向を伺うこと、そのための日々の工夫については、更なる努力が必要です。次年度の課題とします。

『魅力ある介護、魅せる介護を発信します』

実践報告会のオンライン開催を目指していましたが、クラスターの影響により、実施することが叶いませんでした。実践報告会は、日々の積み重ねを地域の方々や同じ志を持つ福祉職の皆さんと共有する場だと考えています。コロナ禍で経験したこと、それを今後に活かす工夫等を実践し、次年度こそは形にしたいと思います。

② その他目標の達成状況

令和4年度稼働率 97.97%を達成しました。(目標稼働率 97.5%)

③ 年度総括

新型コロナウイルス感染症のクラスターを経験し、ご利用者も職員も辛い一年でした。その中でもご利用者のライフイベントのお祝い、グループを盛り上げる企画、丁寧な看取りケアを実践してきたと思います。苦しいことが多かったからこそ、結束力が強まり、結果としてクラスターの被害を最小限に抑え、安定した稼働率をチームで実現しました。

課としての結束力が増した一年だったと思います。次年度は体制の変更に伴う課題、緩和されたコロナの規制等に臨機応変な対応が求められます。培ってきたチーム力でご利用者の生活を支え、楽しい日々を送っていただくために、全体的な質の向上に努めていきます。

(2) 併設型短期入所生活介護

① 重点方針の実施状況

サービスを提供するにあたっては、ご利用者・ご家族が考える「当たり前の生活」を基準としながら、違和感なく集団生活の輪の中で過ごせるようサービスの提供を進めてきました。

入所手続きでは、ご家族からの体調確認等の書面でのやり取りが定着し、来苑して手続きする方が減った事で負担軽減にも繋がり、退所の手紙では、変わりなく過ごされていた事と合わせて、体操やイベントの参加などで楽しまれていた話題を報告し、滞在中の変化を気にして下さる事も増えてきました。

日頃から多くの在宅サービスを利用しながらショートステイを併用している中で、コロナウィルス感染者を確認しても、他のサービスに切り替えながら在宅生活の維持を図るなど、「選ばれるサービス」と共に、時にはスムーズに調整や対応が出来る施設の位置づけが重要になる場面もあります。そういった取り組みの中からその後のサービスの申し込みにも繋がるケースも経験し、都度丁寧に取り組んできました。

安心・安全を継続していく事で信頼に繋がり、現状を理解しながら在宅生活の維持に繋がるよう努める事で、長期的な再利用にも繋がると考えています。

② その他目標の達成状況

日々の食事の中で季節を感じるメニューが話題提供の役割になったり、フロア内でのイベントで甘い物を召し上がった際の笑顔が滞在中の満足度に繋がるケースも多くなりました。在宅生活維持の為にも体調管理と合わせて、下肢の筋力維持も重要視するケースは多く、入退所時のADLに変わりがないよう、日々の活動量にも着目しケアワーカーと協力して生活の維持を図ってきました。

新規利用の方は特に慣れない環境に戸惑う事が無いよう配慮し、周囲の方々とコミュニケーションを図れる環境を提案すると共に、在宅での生活のペースを知る事で個々の過ごし方にも寄り添う事を心掛けてきました。そういった取り組みの中から「知っている場所」から「安心できる場所」「楽しい場所」に変わっていく声もあり、毎月の利用ではなくても、個々のペースで定期的に滞在して頂く事が出来ました。

③ 年度総括

稼働については、年度内にコロナウィルスクラスタを何度か経験し、その都度大きく稼働が低下することが続いていました。特に令和4年11月はショートステイ利用者の滞在フロア内でクラスタであった為、これまで施設内で感染者が出て定期的にご利用されていた方も、その月以降はサービスを見合わせ、長い方では数か月サービスを中断する事もありました。令和5年が変わってから徐々に再開して頂けるケースもあり、2月・3月によりやく90%台にまで回復の兆しが見られましたが、入院や施設入所等でサービスを終了する方も多く、年間通して目標数値には到達出来ない状況が続いていました。

そんな中でも、毎月1～3名の新規利用者をご案内出来た事は、その後の再利用にも繋がり、徐々に滞在日数も長くなり稼働の向上にも繋がったと考えています。引き続き、利用者数を増やしていけるよう、他事業所や担当ケアマネジャーと情報の共有を図りながら稼働の向上に繋がるよう心掛けていきます。

3 デイ・ホーム千歳

(指定通所介護 定員：42名 認知症対応型通所介護 定員：12名)

① 重点方針の実施状況

上半期目標 72.2%→実績 68.9% 下半期目標 70.9%→実績 64.5% 年間目標 71%→66.22%

令和4年度は広報活動に力を入れ、介護支援専門員への広報誌の発行、新聞の配布、Instagramやブログの更新などを積極的に行ってきました。

しかし例年は50件の新規契約があるのに対し、27件とかつてない少ない件数でした。コロナの影響もあるとは思いますが、他のデイサービスとのサービス内容の差別化が足りないと感じ、令和5年度からは半日利用で入浴も出来るようにしています。

② その他目標の達成状況

コロナ禍で制限された中でも今できる最善の活動を行いました。令和4年度は外に出かける事を中心に活動しています。苑内では庭に花や野菜を植え、外でのレクリエーションとして水やり、収穫そして収穫した野菜を調理し食べることで季節感が味わえる活動ができました。苑外では夏はひまわり畑、秋は紅葉ドライブ、年始は六所神社に初詣、春は花見ドライブを実施しています。車でドライブだけでなく、現地に降りて季節を楽しめる時間を作りました。その時の良い表情を写真に撮り、ご本人、ご家族に渡し少しでもデイの様子を感じてもらえるようにしました。

人材育成では、アメーバ経営を軸に5つの班を作り月に一回のミーティングで問題点等を自ら考え、振り返りシートを活用して自身の問題点をアウトプットするようにしました。シートに書かれた内容は他職員でも共有できるようにし、共通認識で取り組めるようにしました。また、毎日の業務での振り返りも全体で行うようにし、記録し休みの職員でも把握できるように努めました。

③ 年度総括

令和4年度はコロナ禍で失った活発な活動を取り戻すことに力を入れてきました。感染対策を継続しながらも外出や季節行事を行うことができました。特に年末に行った餅つきは3年ぶりとなり大盛況で、次年度への弾みをつけることができました。このように活動面では徐々に復活することができていますが、稼働率は伸び悩み苦しい状況でした。定期的に宣伝しケアマネジャーにも認知されているという実感はありますが、相談は少ない状況が続きました。現場では何度も議論し、職員には危機感を感じてもらおうよう経営状況を共有し協力体制を整えました。千歳敬心苑の周囲にはたくさんのデイサービスが存在し、その中で生き残っていくにはサービスの差別化を図り特異性をアピールすることが足りてないと反省しました。同時に社会福祉法人として困難なケースを受け入れるということが地域貢献として最重要であることも再認識できた一年となりました。

4 給田ヘルパーステーション（訪問介護事業所）

① 重点方針の実施状況

シティコート世田谷給田の協力時間延長や、介護保険外サービスをスタートさせたこともあり、1ヶ月あたりの売り上げ平均が4,000,000円を超え、目標の3,800,000円を上回る事ができました。

また、平均顧客単価が令和3年度に比べ約2,600円増加した事も、売り上げ増に繋がった要因と思われます。

② その他目標の達成状況

新規契約者数は年間31人（月平均2.5人）と、目標の50人に達する事ができず、解約者数の方が年間42人と契約者数を上回ってしまいました。

しかし、困難ケース等の依頼は積極的に受け入れたため、他事業所からの新規依頼は増加傾向にあります。

③ 年度総括

人事異動等により人員が増えたため、今までできなかった請求部分の業務分担を行う事ができました。

今年度はコロナの影響もあり、定期的な研修が実施できなかったため、来年度には研修を実施し、更に質の高いサービス提供が出来るよう各自のスキルアップを図ります。

また、長期休止者や解約者と新規利用者のバランスを図ることで、売り上げ目標を達成したいと思います。

5 給田介護保険サービス（居宅介護支援事業所）

① 重点方針の実施状況

年間を通して30～33件程度の担当件数を維持する事ができ、新規相談も世田谷区に限らず、隣接している調布市・三鷹市からの依頼も増加したことから、稼働状況としては目標通り推移できました。

また、日ごろから個々の担当ケースの状況（休止中や終了状況等）を把握し事業所内で情報共有することで、新規相談の依頼が続いた場合も担当を受け持つことがどの職員が可能か迅速に判断し、出来る限り早急な対応ができるよう努めました。

② その他目標の達成状況

昨年度も引き続きコロナ禍での支援となりましたが、感染対策の徹底を行ったうえでご利用者・ご家族・各事業所の担当者が、ご自宅や各サービス事業所内において顔を合わせたサービス担当者会議の実施も行えるようになりました。そのため、書面を通しての情報共有から、ご利用者やご家族からの声・各事業所におけるサービス実施状況等を直接やりとりができるようになり、情報共有がよりスムーズに行えるようになったことから、より良いプラン作成の立案や改善等に繋がったと思います。

③ 年度総括

昨年度の事業計画に掲げておりました事業所内の連携強化については、定期ミーティングにおける現状の支援課題からプラン内容に至るまでの細かい話し合いを行うことで、より良い支援方法を模索できる仕組みが実体化し、事業所全体で密な検討ができるようになりました。そのため、互いのご利用者・ご家族における状況を詳しく把握する事ができたことで、担当者不在時に各所から相談があった場合でも、他職員で対応できる頻度は増したと思われまます。しかしながら、新たな連携における課題もみられる事から、今後もミーティング方法を改善することで、より事業所内連携が強化できるよう努めていきます。

また、職員個々のスキルアップを目指した取り組みや研修立案については課題の継続とし、引き続き来年度においても改善に取り組みます。ただし、職員全体の経験値が上がったことと、新たに主任ケアマネを取得した職員も増えたことで、事業所全体としては安定した支援が出来た一年でもありました。

今後も継続した課題はありますが、地域の方々に根付いた事業所作りを目指し、ご利用者やご家族・各事業・自治体からの信頼を得られるよう日々努力してまいります。

6 烏山あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）

① 重点方針の実施状況

重点目標の1つ目は「地域と共に育ち、地域の方から信頼される事業所を目指す」で、地区内の自主グループやサロンなどの活動拠点を回って得た情報をまとめたマップを最新情報に更新し相談窓口で活用しました。また、高齢者の多く住む団地において、運動、栄養、口腔衛生等フレイル予防に役立つ情報の提供や運動指導を行う団体との繋ぎなど自主グループ立ち上げ支援を行いました。

重点目標の2つ目は「総合相談の対応力を向上する」で、所内でミーティングを開き、相談援助の基本視点を意識して事例検討を行い、実際の支援に活かせるよう働きかけました。検討を通じて自身の支援を振り返ることで、支援者としての傾向に職員自身が気付き、他の職員からの助言による学びを得る機会を作ることができました。

重点目標の3つ目は「介護予防ケアマネジメントの質を向上する」で、地域ケア会議Aにおいては多様な課題を抱えるケースを3件取り上げ、セルフマネジメントの取組に役立つ社会資源の情報提供や、各専門職による提案を行いました。介護予防筋力アップ教室の参加者は年間で6名でした。

② その他目標の達成状況

感染症の流行の状況に左右されず、困りごとをいち早くキャッチするため、各事業は感染予防策を講じつつ窓口PRの機会も減らさない工夫として、地区の商店、コンビニ、新聞店、医療機関、薬局等へ広報紙配布と、出張相談、ミニ講座などの開催、各種会合へ出席等を行いました。年間相談件数は11,790件、地域づくり活動は116回にのぼりました。

③ 年度総括

感染症の流行が続き、徐々にフレイルの高齢者が増加する状況の中「あんしんすこやかセンターへ相談してみよう」と地域住民の方に思い浮かべていただけるよう、困ったときに頼っていただけるような窓口の運営に努めました。

事業所内、訪問先、講座やイベントの開催時も常に可能な限りの感染予防策を講じ、安全な事業運営を心掛けました。

職員に欠員が出る中でも年度内に取り組むべき事業を全て滞りなく実施できたのは、職員一人ひとりの努力と、使命感によるものと考えます。

第3部
池袋敬心苑
(東京都豊島区南池袋)

目次

		頁
1	はじめに . . .	18
2	特別養護老人ホーム池袋敬心苑 . . .	19
3	デイホーム南池袋 . . .	21
4	ふくろうの杜介護保険サービス . . .	22
5	ふくろうの杜高齢者総合相談センター . . .	23
6	障害者支援施設 雑司谷 . . .	24

1 はじめに

令和4年度も令和3年度に引き続き、またそれ以上に新型コロナウイルス感染症の猛威に苦心の絶えない一年となりました。

令和4年6月に障害者支援施設においてご利用者3名、職員2名の計5名が罹患、7月に特別養護老人ホーム3階においてご利用者5名、職員5名の計10名が罹患、8月にデイホーム南池袋においてご利用者10名、職員5名の計15名が罹患、9月に特別養護老人ホーム4階においてご利用者19名、職員5名の計24名が罹患するなど、6月から9月の4か月間に4回のクラスターが発生しました。

罹患防止対策や対応マニュアルが確立され、それを徹底してもなおクラスターが毎月のように発生してしまう状況に、ご利用者へ提供するサービスのクオリティ低下や職員のモチベーション低下を危惧し続ける日々でありましたが、そのような状況下にも関わらず、職員一人ひとりが様々な新しい取り組みを展開することで令和4年度に掲げたスローガンである「前進」の体現に努めました。

特別養護老人ホームでは苑内での生活に豊かさを取り戻すべく、アクアリウムや菜園の設置や、壁紙の刷新や装飾といった「トンカチーズ」による環境整備が進められ、また障害者支援施設では移動動物園の誘致、デイホーム南池袋ではドライブレクなどが提供され、池袋敬心苑が提供するサービスのバリエーションも豊かなものになりました。これらの取り組みは地域の公的な会議等で好事例として取り上げられ、各所より高い評価を頂戴しました。

複数回のクラスター発生は経営面に大きな影響を及ぼしましたが、そのような状況下にあっても前向きに取り組んだ成果は、令和5年度の運営に逞しさを期待させるには充分なものであったと確信しております。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「2類相当」から「5類」に引き下げられます。池袋敬心苑ではこれを「コロナ禍の終焉」と捉え、これまで設定してきた制約の殆どについて撤廃し、一部については段階的な撤廃を進めてまいります。

外出支援やボランティアの受け入れ、地域公益事業や研修参加などの外部と関わる事柄についての制限はすべて撤廃し、ご家族によるご利用者との面会については今後段階を踏み制約の全解除を進め、令和5年度中にはすべての制約について撤廃することで、令和4年度に掲げたスローガンである「前進」を令和5年度も引継ぎ、「さらなる前進」の体現に取り組んでまいります。

また経営基盤強化のために、新規事業への参画や既存事業の拡充にも積極的に取り組み、「逞しい池袋敬心苑」の確立に努めてまいります。

令和5年5月
池袋敬心苑 施設長 齋藤 隆弘

2 特別養護老人ホーム 池袋敬心苑

(指定介護老人福祉施設 定員：82名 併設型短期入所生活介護 定員：10名)

(1) 特別養護老人ホーム

① 重点方針の実施状況

令和4年度は新型コロナウイルス感染症のクラスターが養護課全体で2回発生し、その対応等に翻弄される時期もありましたが、その中でもコロナ禍からの脱却を意識し、ご利用者の「快」や「潤い」を取り戻すための取り組みも複数実施することができました。外出が困難な状況が続く中施設内の環境整備で「快」や「潤い」を担保すべく苑内喫茶コーナーの稼働、苑内アクアリウムコーナーの新設や苑内菜園の新設など新しいサービス提供のカタチを確立できたことは成果として評価しています。

過去3年間中止を余儀なくされていた家族懇談会も実施することができ、ご利用者だけでなくご家族のニーズの抽出により対面会式面会やオンライン面会の機会拡充や面会室を1階ロビーに新設することに繋がりました。

居室担当職員の役割や業務の再確立にも着手し、令和5年度の実践に繋げる準備も整いました。併せて看取りケアについてはご利用者やご家族ごとに多様な望まれる最期のあり方にお応えする仕組みも確立することができました。

② その他目標の達成状況

コロナ禍という情勢により増大する業務負担の軽減を目的とした取り組みとして、職員間の情報共有を含むコミュニケーションの円滑化を図る為、インカムの導入を行いました。また、サービス提供の担保を優先するがあまり疎かになりがちな職員の「こころ」に対するアプローチも継続的に取り組みました。

他施設とも協働し職員の気持ちを吐露する機会とした「こころのありか」や、若い職員のみで構成される「ワカイチカラカガヤケ」の活動支援、アフターコロナを想定したボランティア受入れの為の体制確立、地域公益事業の特化プロジェクトとして発足した「さあ！いこうプロジェクト」の積極的活動、施設内の営繕修繕を職員が主体となり取り組む「トンカチーズ」など、職員の自己実現のための環境作りにも大いに励んだ1年となりました。

それぞれの取り組みが有形無形様々な成果をあげ、職員からも意欲や喜びの声が聞けたことは最大の成果として捉えています。

③ 年度総括

この1年、職員一人ひとりが「コロナ禍」からの脱却を望み、それに繋がる取り組みをすべて承認し続けたことにより、ご利用者にとっての潤いある生活の提供や、職員にとってのモチベーション高揚に繋がることを実感できたことは収穫でした。

同時に令和4年度に掲げたスローガンである「前進」に手応えを得て、また令和5年度のさらなる「前進」を予感させる機運、土壌を整えることができた1年であったと確信しています。

(2) 併設型短期入所生活介護

① 重点方針の実施状況

令和3年度から取り組みを強化してきた「また池袋敬心苑を利用したい!」と思っただけのサービスの運用も概ね順調に推移したこともあり、従前苦慮してきた新規ご利用者の獲得とそのご利用者のリピーター化に成果が数値となって表れた1年となりました。

特養の新規入居者のご案内がコロナ禍により難航する中、その空床をショートステイで補完するまでに至り、年間を通じて100%を超える稼働率を維持し続けたことは最大級の評価をするところであります。直接処遇にあたる介護職員および看護職員一人ひとりの意識も格段に高まり、そのまま「サービス」としてご利用者に還元されたことがその背景にあり、併せて最大級の評価をしております。

② その他目標の達成状況

特筆すべきこととして、お看取りを前提としたショートステイご利用者を複数受け入れることができ、うち1名はご利用中に最期を迎えられお見送りをして差し上げることができました。

ショートステイサービスでお看取りを受け入れることは決して容易なことではなく、ご家族、生活相談員、介護職員、看護職員はもとより配置医師およびかかりつけ医師に至るまでまさに「多職種協働」の結晶と言える成果として評価しています。

③ 年度総括

特別養護老人ホームの報告にも記載しましたが、クラスターが発生してもなおご利用者数が減少しなかったことは、池袋敬心苑のショートステイサービスに対する「信頼」の表れと捉え、今後もその「信頼」を失うことなくより深めていくために、更なる取り組みの推進に対する意志を高めていただくものとなりました。

一方で、特別養護老人ホームの運営基盤の強化、すなわち入所対応の迅速化を図ることで、稼働率の底上げにおけるショートステイ稼働率の依存度を下げることでショートステイご利用者に対しよりきめの細やかなサービス提供を目指していく必要があるという課題も浮き彫りとなりました。

ショートステイ担当職員である「S」配置職員の役割と業務の確立と浸透についても令和4年度期末より取り組みを進め、令和5年度の運用に向け体制強化を図っていきます。

3 デイホーム南池袋

(指定通所介護 定員：35名 認知症対応型通所介護 定員：12名)

① 重点方針の実施状況

今年度立てた事業計画の多くが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、残念ながら思うように取り組むことが出来ませんでした。そうした中ではありますが、活動プログラムの一つである機能訓練指導員による機能訓練において、小集団機能訓練と個別機能訓練の提供体制構築が出来たこと、それによる機能訓練への参加者が増えたことは大きな成果と考えています。コロナ禍における活動や外出自粛の影響によるご利用者の活動量の低下に対する、アプローチの一つとしてご利用者が望むサービスの提供が出来ました。

また、介護記録の入力と共有を効率化させる為、タブレットによる記録入力ソフトを導入し、記録業務と情報の共有に費やす時間を削減することで、介護職員がご利用者に関われる時間や他業務をする時間を増やすことが出来ました。

外部のボランティアの受け入れについては年度末になってから再開することが出来ましたが、実習生の受け入れについては年度通じて積極的に行い、後進育成と世代間交流の機会を作ることが出来ました。

② その他目標の達成状況

レクリエーションや趣味活動の拡充に向けたプロジェクトを発足し、中庭の環境を整え、お散歩やカフェのスペースにする取り組みや、プログラムの合間の時間を有効活用出来ないか検討しましたが、コロナ禍による社会から求められる自粛と感染症対応に忙殺されたことで、なかなか取り組みを進めることが出来ませんでした。次年度に取り組みを持ち越していければと考えております。

③ 年度総括

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、稼働を大きく落としてしまいました。併設施設でのクラスター発生や、当事業所職員やご利用者の感染も相次ぎ、利用控えに繋がってしまった経緯があります。また、利用終了者も年間で50名を超え、半分以上のご利用者が入替わる事態となってしまう、安定的にサービスを提供し続けることが、いかに大変なのかを感じさせられる一年でした。

そうした中ではありますが、デイホーム南池袋がご利用者や地域住民の皆様から必要とされる施設として、コロナ禍の先の新たな日常で提供されるサービスがどうあるべきなのかを、考える必要がありました。ご利用者のこれからのご自宅での生活が継続出来るようにしていく為に、個々の多様なニーズに出来るだけ応えていける事業所作りを今後も取り組んで参ります。

今年度は我慢の一年であったと考えております。この一年の出来事はこれまで経験したことのないものでした。ですが、私たちはこうしたつらい体験の中から、思いや考えを巡らせ、新たなサービスや考え方を生み出していく必要があるはずで、そこに目を向け、新たなデイホーム南池袋を創生することを目標に、一步一步前に進んで参ります。

4 ふくろうの杜介護保険サービス（居宅介護支援事業所）

① 重点方針の実施状況

売上に関しては、売上目標は達成し、前年比も上回っており、稼働率も93.8%と高水準での売上を維持することができました。

地域包括支援センターとの会議や、地区懇談会、地域の事業所との勉強会も2回開催することができ、連携強化や情報の共有を行うことができました。

研修等は、ZOOMを活用し、感染症対策に考慮し研修や勉強会に合計21回参加することで事業所全体としてレベルアップに取り組むことができました。

新型コロナウイルス感染症の流行等、事業継続が困難な状況ではありましたが、個人がしっかりと感染症対策を行い、事業所内での罹患の感染拡大を防止することができました。

② その他目標の達成状況

業務の効率化等は、少しずつ取り組みを行っております。

来年度に向けての課題を抽出し、実現に向けての準備等に取り組まれました。

豊島区介護支援専門員連絡会も、来年度は、新体制となり、介護支援専門員全体を対象を広げ、研修の主催や、保険者や他団体との連携を図っていくように、運営に携わっております。

委員会・会議等には、コロナウィルス蔓延の中、各委員会・会議等に参加して、精力的に取り組むことができました。

③ 年度総括

売上目標は達成し、コロナウィルス蔓延の中、全職員が総力を挙げ、過去最高の売上額を計上することができました。

豊島区からの運営指導も入りましたが、運営基準減算などはなく、指摘事項のみでした。指摘事項に対しても迅速に対応して、改善致しました。

改善点につきましては、事業所内で共有し、改善報告後の対応で統一し徹底して行う事を確認しております。

第三者評価を行い、利用者のアンケート、職員アンケートの結果より、課題を抽出したところ、事業所としての事業所運営やチーム力の強化がより必要ではないかとの結果となりました。そのため、令和5年度より、居宅支援課運営会議を開催し、意見交換や意思決定のための協議体を作っていく予定です。

研修に積極的に参加し、地域と連携をする中で、地域の取り組みや、情報の共有と収集等を行う事ができました。ZOOMでの参加が主となっていますが、集合での研修も少しずつ行えるようになってきております。

今年度も、コロナウィルス対策に追われながらも、事業所として一丸となり、しっかりと対応できたことで、運営指導を乗り切り、過去最高の売り上げという結果を残せました。また、事業所としてだけでなく、施設全体への取り組みにも参加し、協力体制を構築し、施設の一員として一人一人が自覚を持ち、皆で力を合わせて協力する事ができました。

5 ふくろうの杜高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）

① 重点方針の実施状況

地域共生社会の実現のための地域住民、地域の関係機関との連携強化について

令和3年度から圏域に配置された第2層生活支援コーディネーターと月に1回の広報検討会議等で様々な地域の課題や介護予防について話し合いを重ねました。

月に1回の会議には地域の介護予防センター・CSW・区・第1層生活支援コーディネーターも参加しさらなる連携強化となりました。

「お散歩マップ」の作成や「弁当配布」、「だれでも食堂」などが地域内で事業として行われています。さらに通所B事業は区内36サロン中18サロンがふくろうの杜圏域にあり介護予防活動もさかんな地域となっています。

池袋敬心苑の「さあ！いこうプロジェクト」の活動の中の「移動支援」プロジェクトでは、令和4年度は区のモデル事業として地域の銭湯への移送支援が行われ、区、包括、第1・2層コーディネーターとの全体会議や実際の支援に参加しました。

② その他目標の達成状況

積極的なアウトリーチによる相談対応について

圏域内3か所の区民ひろばで計48回/年 出張相談を実施しました。

令和2年度から継続して行われている豊島区ウィズコロナハガキ返送者への対応や、実態調査後のアプローチ活動などを精力的に行い、地域の高齢者の実態把握に努めました。また、①により介護予防活動の場が沢山あることから、アウトリーチでの通いの場への誘いや地域活動や区の介護予防事業への参加を促すことで、参加者が増加しました。

地域の防災の集まりにも参加し、要援護者への対応を話し合いました。

③ 年度総括

令和4年度も相談が多く包括総合相談件数は3,909件となっています。

(令和2年度3,821件、令和3年度3,573件)

見守り支援事業担当に関しては、熱中症事業、ウィズコロナ事業、民生児童委員からの報告や相談件数も併せて3,780件となりました。

地域住民、関係者への包括支援センターの認知度もあがり、今後ますます連携を強化し地域共生社会の形づくりの一翼を担っていきたいと考えています。

6 障害者支援施設 雑司谷

(施設入所支援施設・生活介護 定員 10 名 併設障害福祉サービス事業 定員：1 名)
(地域活動支援センター 定員：10 名)

(1) 施設入所支援施設・生活介護・併設障害福祉サービス事業

① 重点方針の実施状況

重度化・高齢化対応及び職員が長く働き続けられる環境構築を目的とした『雑司谷すこやかプロジェクト』を『暮らしすこやか委員会』に改編、取り組みを継続しました。

『雑司谷いきいきプロジェクト』は『夢いきいき委員会』に引継ぎ、日中活動のプログラム充実の仕組み化を進めました。季節の工作活動、コーヒークラブ等は定番の活動としてすでに定着することができています。

また新たに『ショート行きたい！委員会』を設置、サービスをご利用頂くご本人が「また行きたい！」と思っけて頂けるようなサービスづくりを継続検討できる形としました。ウェルカムドリンクを用意したり、対応の難しいケースなどは担当者がご家庭や利用中の他事業所に訪問し情報収集を行いました。

② その他目標の達成状況

感染対策の困難さから地域行事への参加は引き続き叶いませんでしたが、「豊島区知的障害者支援事業所連絡会」に参画を継続、外部情報の取得や意見交換など施設間交流の糸口としました。

また研修機会の確保を多角的にとらえ、充実を図りました。既存の視聴覚研修、看護職員による緊急時対応の実技研修などに加え、身障協全国大会に若手職員を参加させる、内部の事例検討会を発足させる、若手職員定着を狙いとした『豊島区の街探索研修』等の新たな企画が生まれるなどの収穫がありました。

③ 年度総括

昨年度でコロナも3年目となり、コロナフレイルに属すると思われるご利用者の変化が徐々に目立ってきた一年でした。これまで以上に介助が必要になっていくご利用者に対応すべく知恵を出し合っけての試行錯誤が求められました。日中活動でも感染対策と生きがい創出の両立の困難さが突きつけられる中、少しでも楽しんで頂こうと工夫している職員の姿は印象的でした。

年度後半になったところで職員の不足をほぼ脱却できたことは非常に大きな収穫であった反面、二次的に職員育成と定着の重要度が増してきました。現状の取り組みを継承しながらも職員個々が焦らずに思い描く取り組み、活躍ができるように支え、見守っていくことが最重要課題のひとつです。

(2) 地域活動支援センター

① 重点方針の実施状況

引き続き感染対策を行いながら、安心して通所頂ける環境づくりに努めてきました。新型コロナウイルスに対する各ご家庭の捉え方の違いなどについても把握できていたことで、連絡調整がスムーズになった印象でした。

計画相談支援事業所、居宅介護支援事業所との連携もこれまで以上に増え、過ごし方の中身に触れる議論が交わせたことは収穫でした。

一方、対外的なネットワーク網への参加は環境的な制約などもあり、昨年同様進めることができませんでした。

医療的ケアのニーズがある方への支援も継続した他、見学や特別支援学校からの進路実習の受入、地域からの相談受付も行いました。

② その他目標の達成状況

「地活わくわく委員会」を新たに設置、地域活動支援センター事業の持ち味を生かしたサービスづくりを推し進められるようにしました。担当職員の入退職で体制が安定できず、1年目の収穫は多くはありませんでしたが、懸案となっている日中活動の充実、地域との連携などについて今後主体的に取り組んでくれると確信しています。

③ 年度総括

昨年度も引き続き安全なご利用の確立を図ることを第一としながら、『通いがい』創出を目指した一年でした。

感染対応が長期化する中、職員の業務への慣れ、流行株の弱毒化などを背景に、一時の緊張感からは徐々に落ち着きを取り戻した印象がありました。入所施設のご利用者との交流を図られている様子が増え、何気ない会話に笑顔が生まれるという当たり前の光景が戻りつつあると実感しました。

入所施設での日中活動プログラムが充実したことにより、提供できる活動の幅は少しだけ拡大したように感じますが、通所事業ならではのものは取り組みませんでした。

このような反省点を、令和5年度の取り組みに活かして参ります。

第4部
浦安市障がい者福祉センターきらりあ
(千葉県浦安市)

目 次

	頁
1 はじめに . . .	26
2 就労継続支援B型事業 . . .	27
3 生活介護事業 . . .	28
4 地域相談支援事業 . . .	29

1 はじめに

令和4年度も新型コロナウイルスによる活動・行事等の制限の中でスタートし、7月下旬のクラスターの発生では多くのご利用者やご家族、関係機関の皆様にご心配やご不便をおかけしました。皆様のご協力もありその後の感染拡大は抑えることができました。

生活介護・就労継続支援では、7月に予定していたイベントは時期をずらして開催し、10月の日帰り旅行、12月のきらりあフェスティバルやきらりあ美術館の実施、宿泊体験の再開など、感染防止対策を講じながら少しずつ行事もできるようになりました。併せてご利用者の作業活動としての納品・外販なども再開し、日常が戻ってきていると実感でき嬉しく感じています。

相談事業所では、ご利用者の年齢や家庭環境の変化によるニーズが増えてきており、本質的な課題や個々の感情を汲み取りながら丁寧な対応に努めました。年度末の3月より月1回の土曜日「フリースペースふらり」の試行を開始しました。就労している障がいのある方がゆったり過ごしたり他者との交流を楽しんだり、休日の午後にふらりと立ち寄れる場所を目指しています。

年度途中に江東区障害者福祉センター開設のための法人内の異動により職員体制の変更がありましたが、ご利用者と支援員の安定した関係性が土台となり、大きく混乱することなくサービスの継続ができました。今後は法人の障がい者支援事業として交流の機会をもってそれぞれの支援力を高めていきたいと思えます。

指定管理期間5年間の2年目は、次年度からの新しいサービスにむけての準備期間となりました。職員の創意工夫や知識を形にしながら、ご利用者のニーズに応えるために引き続き努めていきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年5月
浦安市障がい者福祉センター センター長 大島 佐登子

2 就労継続支援B型事業

① 重点方針の実施状況

(1) ご利用者が働きがいを持ち、より主体的に働ける職場づくり

ご利用者に合った作業量を準備したり、新しい作業や得意な作業を任せたりする中で、安定して作業に取り組んでいただくことができました。今年度は新しく百円均一や文房具店で売られている商品の組立やパッケージ作業を導入し、多くのご利用者が携わりました。また、その商品が店頭に並んでいる写真をご利用者に見てもらい、意欲の向上へつなげました。

(2) 工賃の維持・向上

新しい作業は積極的に受けると同時に単価交渉を行いました。文具を取り扱う業者など、取引先を増やすことができました。また、材料や消耗品などの内容の見直しや、クリーニングのボイラーと製菓のオーブンの稼働時間を意識することで、経費削減に努めました。毎月の工賃の他、賞与も例年通りの回数で支給することができました。

(3) 安心・安全な生活環境の維持

作業室内の常時換気やパーテーションの設置、マスク着用、手指消毒の奨励、1日2回の体温測定や体調確認などを行いました。また、作業室内のレイアウト変更や物の置き場などを定期的に見直し、安全に配慮しました。

② その他目標の達成状況

(1) ご利用者が楽しめるイベントの開催

3年振りに日帰り旅行（葛西臨海水族館と東京スカイツリー）を実施し、皆さんに楽しんでもらうことができました。ご利用者の自主サークルでは紙風船を使ったスイカ割りを行うなど、感染対策を取りながらイベントを行いました。

(2) 社会生活上のルールやマナーを確認する場の設定

グループごとの朝礼や月1回の全体終礼の際に季節や時事の話題を取り上げながら、ご利用者が理解しやすいようにイラストなどを用いて伝えました。

③ 年度総括

令和4年度は外販や納品回収などを再開し、日帰り旅行も3年振りに実施することができました。徐々にコロナ禍前の活動に戻しつつも、感染防止対策は継続し、安心して作業やイベントに参加してもらえるように心がけました。一方でご利用者の高齢化が進み、作業だけでなく生活面や健康面での課題が顕著になってきた一年でもありました。

3 生活介護事業

① 重点方針の実施状況

(1) 意欲を引き出す支援

活動の内容をご本人にわかりやすく伝え、数種類から選択してもらう機会を作りました。自分で選んだものに取り組むことで、満足感や達成感を得られている様子でした。また、作業ではご本人の得意なものを中心に提供することで、ご利用者の力を発揮する場面を作ることができ、それぞれが携われる作業も増えました。

内部での勉強会や外部研修への参加を通して、支援員各々が知識や技術を深めご利用者の支援に生かすことができました。

(2) 体力の維持

ご利用者それぞれの体調等に配慮し、楽しみながら体を動かす時間を設けました。生活班ごとにプログラムを作成し、ウォーキングや公園外出、ダンス、体操、ストレッチ、ボッチャ、ゲーム性のあるものなど、いろいろな運動を継続して提供しました。

月に数回ほど市内の体育館を利用し、マット運動や跳び箱、バスケットボールなどに取り組みました。広い空間の中、体を大きく動かし気持ちよさそうに参加する姿が多く見られました。

(3) 安心できる生活の提供

健康状態を含めたきめ細かい様子観察、ご家族や関係機関との情報共有などにより、ご利用者の体調管理に努め、状況に応じて活動内容や活動量を調整しました。また、換気や消毒などの感染症対策を講じ、生活面だけではなく、活動やイベントにも安心して参加できる環境を提供しました。

② その他目標の達成状況

豆まきや七夕などの季節行事に加え、夏に「キーホルダーづくり」冬は「カレンダーづくり」といったそれぞれの個性を生かせる活動を通して、ご利用者の積極性や明るい表情を引き出すことができました。

秋の旅行は安心と安全を考慮し日帰り企画し、大型バスを利用して房総方面に出かけました。現地ではそれぞれのペースに合った小グループに分かれ、食事や買い物などで3年ぶりの旅行を楽しむ様子が見られました。

③ 年度総括

以前の生活を少しずつ取り戻してはいるものの、やはりその時々状況に合わせざるを得ない一年となりました。制限がある中でも、支援員がチームとなって支援内容を工夫することで、ご利用者が安心して生活を送り、いろいろな活動に穏やかに参加することができました。また、ご利用者自身もこの数年で多くの変化を経験したことで、柔軟に物事を受け入れられる様子が多く見られ、頼もしさやご本人が持っている力を改めて感じる一年にもなりました。

4 地域相談支援事業

① 重点方針の実施状況

(1) ご本人の生活の伴走者として権利擁護の意識と幅広い視点を持った対応

ご利用者から相談を受ける際には、ご本人にとって不利益が生じないかという視点を持つように心がけました。また、専門性を活かし、表明に表れていない課題に対して伝えたい本質的な事や感情を汲み取り、背景にある課題の把握とその解決に努めました。

(2) 本人主体の計画であることの明確な発信

サービス利用計画のニーズを聞き取る際には、ご本人がどのように考えているかに着目し、ご本人の言葉として計画に反映させるように取り組みました。また、担当者会議や支援者への聞き取りにおいては、ご本人の真意を読み取るため具体的なエピソードを聞き取ることを意識しました。

(3) 必要な情報収集とご利用者の希望に沿ったコーディネート

一般相談については、実際のサービス提供はありませんでした。来年度は事業所で一般相談のサービス提供をしていることの周知と、関係機関との連携を強化して、利用者の確保につなげられるようにしていきたいと思っております。

② その他目標の達成状況

内容	件数
サービス等利用計画作成数	140
モニタリング実施数	631
担当者会議開催数	241
相談対応件数	11,063

相談支援実務者会議	年3回
地域の関係機関との連携会議	年1回
自立支援協議会相談支援部会	年3回
事例検討会議（市内事業所連携）	年1回
事例検討会議（基幹相談支援センター主催）	年7回
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進会議	年3回

③ 年度総括

年々、相談対応件数は増えていますが、内訳をみると、ご利用者一人一人の年齢や家庭環境の変化に伴い、相談員の介入が必要な場面が増えてきていることが分かります。来年度も、個々のご相談にきめ細やかに対応できていることは維持しながら、実施事業の周知や相談員のスキルアップにも改めて取り組んでいきたいと考えています。

第5部
敬心ゆめ保育園
(千葉県船橋市)

目 次

		頁
1	はじめに . . .	30
2	保育事業 . . .	31
3	特別保育事業 . . .	32

1 はじめに

令和4年度は開園9年目となり、長期戦となったコロナ禍での生活も3年目になりました。情勢の変化も見え始めているものの中々終息しない状況下の運営は、その都度緊張が走り感染を拡大させたくない一心で対応をしてきました。

当園での感染は7月中旬から9月初旬まで、感染の波が引いては押し寄せ絶えずどこかのクラスで感染が発生するような状況が見られ、クラス単位の閉鎖の措置を取らざるを得ない状況が続きました。

感染拡大が止まらなると嘆きながらも、これ以上子ども達の保育を規制する事にも躊躇があり判断に困った時期もありました。コロナ感染が落ち着いた時期を逃さず、出来る限り制限をせずに行う活動の計画を続行しました。その甲斐あって、秋の運動会ではコロナ禍以前の形式に寄せて開催する事ができ、感動と歓びで目頭が熱くなる思いでした。

その後も12月に感染拡大の危機に見舞われながらも、状況を見極め臆することなく子ども達に寄り添いながら、生きる力を育むために職員一丸となって乗り越えました。

令和5年3月、第9回卒園式を執り行いました。大切な幼児期の3年間制限と我慢のコロナ禍を経験した子ども達でしたが、皆立派に将来の夢を発表し感謝の気持ちを言葉にして保育園を巣立ちました。卒園児26名は4校の小学校にそれぞれ就学しました。

コロナ禍で一気に進んだICT化も、今年度は試行期間として0歳児から保護者連絡帳システムの運用を開始しました。園での子どもの姿、その瞬間が文字以外に画像で確認できるシステムは大変好評でした。次年度は更に利用の幅を広げて運用していく予定です。

数年に亘る感染症の対応で心身共に疲れが見え始めている職員が、職場でいきいきと働くために、適切な健康管理・ワークライフバランスの適正化、職員自身とその家族や仲間が健康で明るく生活を送れるように努めてきたことで、働きやすい職場としての満足度が高まり、健全な職場環境の確立にも繋がり始めていると感じます。

園児・ご家族・職員にとっても、長く続いたコロナ禍中では失った時間も多くありましたが、同時に得るものも多かったと思います。悲観せずに前向きに考える視点も大切だと改めて学びました。令和5年度5月からは新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、更に変化の年になると思いますが、どの様な環境下に置かれても守るものを全力で守れるように努めていきたいと思えます。

関係各所の皆様をはじめ、園児保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力によって、令和4年度も無事に終えることが出来ました事に心より感謝申し上げます。

令和5年5月
敬心ゆめ保育園 園長 佐藤 宏美

2 保育事業

① 重点方針の実施状況

(1) 指針を遵守しながら子どもの最善の利益のための保育の充実

- ・コロナ禍でクラス閉鎖等がある中でも、情勢の変化と共に制限を徐々に緩和し日常を取り戻せるように考慮しました。水遊びの活動などもコロナ禍以前と同等の計画へと切り替え、経験の幅を広げられるように働きかけました。

(2) 職員一人ひとりの専門性と保育の質の向上と新時代を意識した取り組みの構築

- ・リーダー職・副主任職などの役割を明確化したことで、業務遂行能力が高まり、新人育成にも力を入れることができました。
- ・職員に身近な LINE による無料会議、LINE 面談などの定着により、コロナ禍中であっても簡単且つどこからでも参加でき、勤務時間内に効率よく行えたことは残業ゼロに繋がりました。
- ・ICT の活用拡大に伴い、保護者との連絡システムでは、画像添付により保育の様子が可視化されるなど保護者、職員の情報共有の効率化が大きく前進しました。

(3) 健全な職場環境とコロナに負けないリスク管理

- ・育児休暇からの復職を目指す職員にも、復職後に安心して子育てと仕事の両立ができるように時短勤務や業務内容量軽減にも取り組みました。

また、同時に介護による離職を迫られる事なく働けるように、職員に寄り添った業務・職員体制の維持に努めました。

② その他目標の達成状況

- ・令和4年度も離職者が少なく、チーム保育推進費などが継続して加算され職員の処遇改善に繋がりました。
- ・昨年に続き1名の育休職員の復帰がありました。
- ・感染防止に努めながら、運動会・卒園式等大きな行事をコロナ禍以前の形に戻して実施できました。

③ 年度総括

今年度もコロナ禍の影響を受け、制限下での保育計画を余儀なくされスタートとしました。年度途中で規制が緩和の方向に進み始めた事を機に、行事や活動をコロナ禍以前に戻すべく計画を練り直す中、幾度となく感染拡大の波に見舞われました。夏期と冬期に全6期間のクラス閉鎖も実施され、延期しながら合間を縫って行事を行いました。コロナ陽性者の発生に伴う対応もスムーズになり、感染拡大の規模を最小限に抑えるように努めました。

活動の制限を緩和し、様々な経験の機会を取り戻せたことにより、快活さが戻り子ども達の育ちに明らかな変化がみられました。

保育や保育士の質の向上のための情報共有や、保護者との連携の為の情報交換なども、園のICT化が進み始めたことで様々な運用が可能になったことは大きな成果であると感じています。

3 特別保育事業

① 重点方針の実施状況

(1) 延長保育事業における長時間保育の在り方

・働き方改革により保護者の延長保育利用が激減した昨年に比べ、保護者の職種によって本当に必要な方のみが利用する形へと利用傾向が変化しました。長時間保育が当たり前になっていたコロナ以前の考え方を一新することの機会は、子ども達にとっては良い傾向だったと考えます。

・コロナ禍に於いて利用料減が懸念されていましたが、年度後半には合同保育を復活させ、保育に使用する部屋を一か所にまとめた事が経費削減に繋がり利用料減を総裁できる形になったのではないかと考えています。

(2) 病児保育事業体調不良児対応型保育の安心且つ安全な取り組み

・病児の預かりスペースとして医務コーナーを拡大（相談室と交換）し、感染防止対策に努めました。

・事故発生防止委員会で怪我や事故発生の傾向と分析を行い、未然に防ぐための対策を講じ環境の見直しを図りました。

・アレルギー対応等については、昨年見直された提供システムを下に適切な対応、保護者と職員の連携が定着し、提供ミスや誤食に繋がる不安が解消されました。

② その他目標の達成状況

(1) 地域活動推進事業の課題の抽出と活性化

・幼保小の連携では、小学校との関わりの機会は一部再開しました。近隣保育園の年長児との連携に於いては、移動水族館を招き交流する機会を設けました。

・地域子育て世帯に、あそび場の提供と相談システムの在り方については、規制緩和に伴い令和5年5月には再開できると見込んで計画を進めてきました。

③ 年度総括

延長保育事業や病児保育事業体調不良児対応型保育は、今年度もコロナ禍中ではありましたが、情勢が変化しはじめ規制が緩和傾向に進みだしてはおりましたが、同時に働き方改革も定着したことで利用の仕方にも変化が見られました。

地域活動推進事業に於いても、他園や学校との連携も少しずつ形を変えて実施し始めました。今年度はコロナ禍3年目にしてようやく目標達成の一步を踏み出せた一年だったと感じます。

第6部
江東区障害者福祉センター 開設準備室
(東京都江東区扇橋)

目 次

	頁
1 はじめに . . .	33
2 開設準備計画と実施報告 . . .	34

1 はじめに

令和5年度より江東区障害者福祉センターを敬心福祉会が運営するに当たり、令和4年11月1日に準備室を正式に設置しました。この準備室の正式名称は、「江東区障害者福祉センター指定管理業務移行準備室」です。略称としている「障害者福祉センター（開設準備室）」という名称は、既にセンターが長く運営をされていることもあり、利用者に不安を抱かせ、当時の運営者にも失礼になるのではとの考えから、江東区社会福祉協議会の障害者福祉センター所長に相談をして決めたものです。これがゼロからの立ち上げではなく、既にあるものを引き継ぐという困難さのはじまりでした。

実際の運営準備は指定管理者選考へ応募を決めた令和4年6月から始まっていました。まずは中核職員となることを期待された浦安事業所の職員に声をかけるところからです。どの職員も、私自身を含め、それまで異動など脳裏をかすめたこともない者ばかりでした。期待と不安のはざまに悩んだ末に立ち上げに携わることを選択した職員たち、また、新たに敬心福祉会の職員となるべく仲間となってくれた職員たちとで準備を進めていきました。事業所の立ち上げという意識で始めてみるとなんだか勝手の違うことばかりでした。新しい事業展開を期待されつつも既にあるシステムとご利用者をまるまる引き継ぐ難しさに直面し、行き詰まり、葛藤を抱える場面に頻繁に遭遇しました。また、初めて経験する障害者福祉センターが担う多様な業務や引き継ぎ期間の短さも困難さを増す要因となっていました。

もちろん引き継ぎをする側の社会福祉協議会や江東区役所担当課の皆様も大変な御苦勞をされながら協力をしてくださったと認識しています。なにより、ご利用者・保護者の皆様が私たちを受け入れてくださるまでには多くの葛藤があったことは容易に想像できます。

準備を始める段階ではどのようなスケジュール感で何をどこまで進めればよいのか見当がつかず、準備計画と実施実績には大きな隔たりができましたが、それでも3月末で準備期間を無事終了し4月からの運営開始にたどり着きました。多くの人たちが苦勞と努力を積み重ねた結果、より良いスタートを切ることができます。この準備期間中にご協力をいただいた法人内外のすべての皆様に再度ここで感謝を申し上げますとともに、今後ともなにとぞご支援・ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和5年5月
江東区障害者福祉センター センター長 肥田 淳

2 開設準備計画と実施報告

① 開設準備計画のスケジュール

(1) 全体スケジュール

令和4年10月下旬	江東区議会にて指定管理者として最終選定
10月下旬	通所利用者の保護者に対する説明会開催
11月	指定管理業務移行準備室を開設（障害者福祉センター内） 浦安事業所から異動職員6名、新規採用者4名を配属 江東区社会福祉協議会から業務引き継ぎ開始
12月	新規採用者1名を追加配属
令和5年1月	新規採用者12名を追加配属
2月	新規採用者4名を追加配属
3月	新規採用者5名を配属
3月末	江東区社会福祉協議会からの業務引き継ぎ終了
4月1日	新規採用者16名を配属 敬心福祉会として運営開始

(2) 引き継ぎスケジュール

プログラム	令和4年		令和5年			主な内容
	11月	12月	1月	2月	3月	
全体管理	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	管理全般について引継
協定書締結	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	協定書締結、その他契約書等（備品等の引継書類）
管理運営に関する基本的事項の引継	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	施設管理運営、設備保守管理、各種委託（給食委託等）、防災消防、予算関係、個人情報、法人所管の各種要領、要綱等の引継
各関係団体、関係機関との顔合わせ及び引継	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	・区内障害者児施設、区内社会福祉法人等関係団体との連携方法引継 ・東京都等の関係機関との連携方法引継
利用者支援引継	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	・個別の利用者支援方法の引継 ・事業別（生活介護、就労継続B型、地域生活支援、区条例事業等）の運営方法等の引継
利用者家族個別相談対応		⇒	⇒	⇒	⇒	・各種利用者契約関係書類、個人情報書類、各種支援関係書類、各種支援マニュアル、各種業務分担等の書類及びマニュアル関係の引継 ・経理関係書類、給付費請求方法、利用者自己負担分請求方法、滞納者対応、指定管理料の執行方法等の引継
家族会開催	○	○		○	○	
計画相談引継	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	計画相談業務の引継
サービス管理責任者引継	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	サービス管理責任者業務引継
委託（選定・契約）			⇒	⇒	⇒	委託業者の選定及び契約
リース（選定・契約）		⇒	⇒	⇒	⇒	リース業者の選定及び契約
各種届出				⇒	⇒	各種届出等
備品・物品購入				⇒	⇒	備品の引継及び購入等

② 実施報告

(1) 職員体制

①引継ぎ職員体制

職 種		令和4年		令和5年			
		1 1月	1 2月	1月	2月	3月	4月
常 勤	室長	1人	1人	1人	1人	1人	1人
	支援員	3人	7人	10人	11人	11人	24人
	看護師				1人	1人	3人
	相談員			1人	1人	1人	1人
	事務員	1人	2人	2人	2人	2人	2人
非常勤							13人

※11月に社会福祉協議会職員（障害者福祉センター所属）に対し法人間異動の意向調査。4月1日より17名が敬心福祉会に異動（内、非常勤13名）。

②職員研修等

法人内現場研修、入職時研修（権利擁護・事故防止等）、消防管理者講習、オンライン研修（障害者施設職員研修）、サービス管理責任者基礎研修

(2) 引継ぎ内容

①利用者支援（生活介護、就労継続B型）

- ・利用者の食事、排泄、更衣等の日常生活支援の各種業務、社会体験や健康活動等の支援サービス業務、作業・生産活動に関わる業務、保健管理業務等
- ・個別支援計画進行管理等サービス管理責任者の業務
- ・その他利用者支援に必要な業務

②指定特定相談支援事業

- ・契約者に提供されている障害福祉サービス等指定特定相談支援業務

③地域活動支援センター事業等

- ・団体登録、利用申請等の手続き業務 ・個人・団体活動支援業務
- ・点訳、声の広報、高次脳機能障害者支援促進等業務

④管理運営事業

- ・施設及び設備の維持管理状況の把握及び管理業務
- ・備品等の把握及び管理業務 ・給食調理委託業務等の引継ぎ調整
- ・令和5年度契約事業者の選定及び契約 ・その他施設管理運営に必要な業務

⑤事業計画書の作成及び各種規程等の整備

⑥各種マニュアルの整備

⑦各種変更届の作成及び提出

- ・障害福祉サービス事業変更届、相談支援事業変更届、防災・消防等届出等

(3) その他の業務

①利用者家族への説明会及び個別相談等の実施

保護者説明会①令和4年10月26日 ②令和5年3月28日

保護者・利用者個別面談 令和5年2月6日～3月15日

②関係機関との顔合わせ

③システム構築及びホームページでの利用案内情報公開準備

社会福祉法人 敬心福祉会

～ 事業所一覧～

【〒157-0064 東京都世田谷区給田5-9-5】

- 法人本部事務局 TEL 03-5958-1165 FAX 03-5958-1210
- 特別養護老人ホーム 千歳敬心苑 TEL 03-3307-1165 FAX 03-3307-1140
- デイ・ホーム千歳 TEL 03-3307-2282 FAX 03-3307-1140
- 給田介護保険サービス TEL 03-3307-2598 FAX 03-3307-1140
- 給田ヘルパーステーション TEL 03-3307-2424 FAX 03-3307-1140

【〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-2-19 烏山区民センター2階】

- 烏山あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）
TEL 03-3307-1198 FAX 03-3300-6885

【〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-7-8 オリナスふくろうの杜】

- 特別養護老人ホーム 池袋敬心苑 TEL 03-5958-1165 FAX 03-5958-1210
- デイホーム南池袋 TEL 03-5958-1206 FAX 03-5958-1209
- 障害者支援施設 雑司谷 TEL 03-5958-1176 FAX 03-5958-1210
- 雑司谷デイサポートセンター TEL 03-5958-1176 FAX 03-5958-1210
- ふくろうの杜介護保険サービス TEL 03-5958-1207 FAX 03-5958-1195
- ふくろうの杜高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）
TEL 03-5958-1208 FAX 03-5958-1195

【〒279-0042 千葉県浦安市東野1-8-2】

- 浦安市障がい者福祉センターきらりあ（就労継続支援B型事業・生活介護事業）
TEL 047-350-8770 FAX 047-350-8766
- 指定特定相談支援事業 きらりあ相談室 TEL 047-350-8765 FAX 047-350-8775

【〒273-0002 千葉県船橋市東船橋3-15-8】

- 敬心ゆめ保育園 TEL 047-411-5725 FAX 047-424-7373

【〒135-0011 東京都江東区扇橋 3-7-2】

- 江東区障害者福祉センター TEL 03-3699-0316 FAX 03-3647-4918